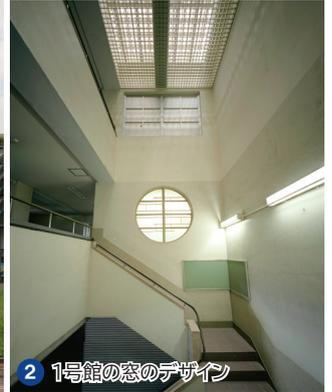




1 1号館



2 1号館の窓のデザイン



3 五代友厚像
(商学部前)



4 メタセコイア
(田中記念館前)



5 「対称性の自発的破れ」(理学部)



文化財から素粒子物理学まで、見所いっぱい、杉本キャンパス

—大阪公立大学の歴史③—

大阪公立大学杉本キャンパスは、1933年に大阪商科大学が移転して誕生したが、1945年から55年まで占領軍により接收されていた。1949年に大阪市立大学が誕生し、1968年までに商学部、経済学部、法学部、文学部、理学部、工学部、家政学部(現生活科学部)が集結したキャンパスとなった。キャンパスには大学の歴史を物語る建物や施設などが数多くある。2022年に大阪公立大学が誕生し、2025年9月に開設した森之宮キャンパスに文学部と生活科学部の一部(食栄養学科)が移転した。2028年度に工学部が中百舌鳥キャンパスに移転予定である。

①② 1号館：大阪商科大学の本館として1934年に建設された。戦前から続く伝統的な構成と戦後に一般的となる新しい造形(モダニズム)をもつ点で、他大学には残されている例がなく、2002年に国の登録有形文化財に指定された。後に家政学部教授となった伊藤正文1896-1960によって設計された建物で、階段の両脇の窓のデザインには、円や正方形が使われ、見る人に強い印象を与えている。1階には、2020年に開室した大阪市立大学140周年記念展示室がある。ドアノブや鴨居などを部分的に再利用し、

建設当時の1号館の様子を復元した展示室に、大学の歴史と研究の成果(地質学と大阪の歴史)が展示されている。

③ 五代友厚像1836-85：五代友厚は、大阪市立大学の原点である大阪商業講習所の創設に尽力したひとりである。2016年に、大阪市立大学同窓会により銅像が建てられた。

④ メタセコイア：メタセコイアは、理学部の教授をつとめた三木茂1901-74が1941年に化石を元に命名したヒノキ科の落葉針葉樹である。1946年に中国で現存しているメタセコイアが発見され、「生きている化石」として有名になった。三木は、「メタセコイア保存会」を結成し、メタセコイアの普及と研究を行った。田中記念館の前には、1950年代に植えられたメタセコイアが大木となり、春の新緑、秋のレンガ色の色付きが美しい。

⑤ 「対称性の自発的破れ」1921-2015：南部陽一郎(大阪市立大学特別栄誉教授)は、理工学部に1949～56年に在籍し、理論物理学の研究を行なった。2008年、「素粒子物理学における対称性の自発的破れの機構の発見」により、ノーベル物理学賞を受賞した。理学部玄関の壁面には、「対称性の自発的破れ」をモチーフとした三角柱のオブジェが配置されている。(大学史資料室 渡部陽子・塚腰実)



大阪公立大学・高専基金へのご寄附のお願い
お申込み時に「特定プロジェクトのために：⑨-3」を選択してください。
(⑨-3：1号館ミュージアム構想のために)

【お問い合わせ】 渉外企画課 TEL: 06-6967-1836
<https://www.omu.ac.jp/fund/>

編集発行
大阪公立大学 大学史資料室
協創研究センター・大学史編纂研究所
杉本キャンパス学術情報総合センター6階(大学史資料室)
Tel : 06-6605-3371 E-mail : gr-gakj-archives@omu.ac.jp



6

大阪市立西華高等女学校（生活科学部の前身）時代の築山：大阪市西区にあった当時の築山が復元され、古い石灯籠もある。



7

大阪商科大学高商部玄関の車寄せ：1932年に建設された車寄せが、全学共通教育棟の出入口として移設・利用されている。



8

2号館（奥）と体育館（手前）：1932年に建設された2号館の丸窓と、体育館の柱群には、幾何学的な美しさがある。

旧教養地区



9

大阪市立大学 140 周年記念展示室：2020 年開室。「大阪の歴史と共に」をテーマとし、大阪市立大学のシンボルカラーであるエンジ色の年表が展示室全体を取り囲んでいる。「研究成果のトビラ」として、日本列島の地質と放散虫化石、大阪平野の地質、地震災害・防災、旧石器時代から近代までの大阪の歴史、古人骨資料、そして「大学史のトビラ」として大阪市立大学の 140 年の歴史が展示されている。森の宮遺跡出土の人骨（縄文時代）は、大阪市指定文化財である。見学には大学史資料室へ予約が必要である。



10 『市大のあゆみ』



11 開高健の「著作コーナー」

学術情報総合センター：杉本図書館があり、1階には「市大のあゆみ」の展示がある。3階には大阪市立大学の卒業生で、芥川賞を受賞した開高健の「著作コーナー」がある。

理工地区



本館地区



大和川



12

大阪商科大学高商部の丸窓と手すりの展示：高商部の建物として使用されていたものが移設されている。杉本キャンパスの歴史の展示もある。



13

田中記念館：市立大阪商業学校の卒業生である田中吉太郎の寄付により 1975 年に開館した。八角形の大会議場、展示室、レストラン「めたせこいあ」が連なる斬新なデザインで、国際会議やコンサート、留学生の集いなどに幅広く利用されている。



14

高原記念館：大阪市立大学商学部の卒業生である高原慶一郎の寄付により 2006 年に開館した。工学研究科 横山俊祐教授によって設計された。再生ガラスと透明ガラスを用いた全面ガラス張りの多角形の建物で、緑と同調するデザインとなっている。



15

大阪商科大学グラウンドのスタンド：戦前より利用されていたスタンドの一部が残され、現在、補強のための柱が設置されている。「RESERVED FOR THE COMMANDING OFFICER (司令官により確保)」と書かれ、占領軍による接収の痕跡となっている。



16

戦没学友の碑：第二次世界大戦中には、大阪商科大学の千名にのぼる学生が学徒出陣し、戦死者は 59 名 (2002 年時点判明) におよんだ。学徒出陣の生還者が中心となり、戦没した学友を偲ぶために、2002 年に建てられた。



資料室だより

◆大学史資料室では「大阪公立大学 大学史資料室 NEWS LETTER」を発行しています。大阪公立大学の貴重な学術資料や大学の歴史を紹介します。◆この「NEWS LETTER」は、大阪市立大学「140 周年展 + 大学史資料館（大学博物館）設立準備 NEWS LETTER」の後継紙であり、「大学の知を発掘！」の番号を引き継いでいます。両紙とも大阪公立大学 大学史資料室のホームページ、図書館ホームページの機関リポジトリで公開しています。

大学史資料室からのお願い

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。

→杉本キャンパス学術情報総合センター 6 階 大学史資料室

Tel : 06-6605-3371